

1. 日米株式と円/ドルの推移

<日本株 (日経平均) >



<米国株 (NYダウ) >



<円/ドル >



(注)チャートは過去1年

| | 単位 | 2023/12/31 | 2024/6/30 | 2024/6/28 | 過去3年高値 | | 過去3年安値 | |
|------|----|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | | (前年末) | (前月末) | (前週末) | 水準 | 日付 | 水準 | 日付 |
| 日経平均 | 円 | 33,464.17 | 39,583.08 | 39,583.08 | 41,087.75 | 2024/3/22 | 24,681.74 | 2022/3/9 |
| NYダウ | ドル | 37,689.54 | 39,118.86 | 39,118.86 | 40,077.40 | 2024/5/20 | 28,660.94 | 2022/10/13 |
| 円/ドル | 円 | 141.04 | 160.88 | 160.88 | 161.27 | 2024/6/28 | 108.72 | 2021/8/4 |

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～ 国内長期金利の上昇に左右されながらもバリュー株中心に物色が広がったことにより上昇～

先週の日本株市場は、日経平均が986.61円 (+2.56%)、TOPIXが+84.94ポイント (+3.12%) となり、国内長期金利の上昇に左右されながらもバリュー株中心に物色が広がったことにより上昇しました。業種別でみると保険業、銀行業、輸送用機器、医薬品、証券・商品先物取引業などの32業種が上昇した一方、ゴム製品の1業種が下落しました。

週初24日は、為替が約2ヶ月ぶりに1ドル159円まで円安ドル高が進行したことなどから、輸出関連株を中心に上昇しました。25日も、前日の米国株市場では相対的に出遅れ感のあった景気敏感株が上昇した流れを受け、銀行や保険、輸送用機器などのバリュー株を中心に続伸しました。26日は、前日の米国株市場で半導体関連銘柄を中心に構成されるSOX指数(フィラデルフィア半導体株指数)が反発したことを受け、日本株市場でも半導体関連中心に上昇し3日連続で続伸しました。翌27日は、1ドル160円まで円安ドル高が進行したものの、短期間で急騰したことによる利益確定売りが優勢だったことや、日銀が7月の日銀政策決定会合で追加利上げに動く懸念の高まりを受け国内長期金利は上昇したことが上値を抑制しました。週末28日は、国内長期金利の上昇を背景に利鞘が拡大すると意識された大手銀行などの金融関連株中心に上昇して引けました。

3. 今週の主な予定

| 日程 | 曜日 | 国・地域 | 項目 | 期間 | 前回 | |
|------|-----|------|----------------------------|----------------|---------|-------|
| 7月1日 | Mon | 日本 | 日銀短観 大企業製造業景況感(現状) | 4-6月期 | 11 | |
| | | 中国 | 財新製造業PMI(購買担当者景気指数) | 6月 | 51.7 | |
| | | ドイツ | CPI(消費者物価指数)(前年比) | 6月 | +2.4% | |
| 7月2日 | Tue | 米国 | ISM製造業景況指数 | 6月 | 48.7 | |
| | | 欧州 | ユーロ圏CPI(除食品・エネルギー・たばこ/前年比) | 6月 | +2.9% | |
| | | 米国 | JOLTS求人数 | 5月 | 805.9万人 | |
| 7月3日 | Wed | 米国 | 財新サービス業PMI | 6月 | 54.0 | |
| | | | 製造業受注(前月比) | 5月 | +0.7% | |
| | | | ISM非製造業景況指数 | 6月 | 53.8 | |
| | | | ADP雇用統計 | 6月 | +15.2万人 | |
| | | | 貿易収支 | 5月 | ▲746億ドル | |
| 7月5日 | Fri | 日本 | FOMC(米連邦公開市場委員会)議事要旨公表 | 6月11・12日開催分 | | |
| | | | 景気一致指数 | 5月 | 115.2 | |
| | | | 景気先行CI指数 | 5月 | 110.9 | |
| | | | 欧州 | ユーロ圏小売売上高(前月比) | 5月 | ▲0.5% |
| | | | ドイツ | 鉱工業生産(前月比) | 5月 | ▲0.1% |
| 7月7日 | Sun | 米国 | 非農業部門雇用者数変化 | 6月 | +27.2万人 | |
| | | 欧州 | フランス国民議会(下院)選挙の第2回投票 | | | |

決算発表予定 他 国内 決算発表 : 7/5 安川電

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～ 円安や国内金利上昇を受けた業績上方修正期待はあるものの、米重要指標を控えた様子見姿勢の高まりなどから週後半にかけて上値の重い展開～

今週の日本株市場は、円安や国内金利上昇を受けた業績上方修正期待はあるものの、米重要指標を控えた様子見姿勢の高まりなどから週後半にかけて上値の重い展開を予想します。

本日(7/1)発表された日銀短観は、大企業製造業の業況判断DIが前回3月から改善し、また同非製造業は個人消費の弱さなどから4年ぶり悪化したものの依然として高い水準にあり、総じてみれば堅調な内容となりました。また、企業の物価見通しや販売価格見通しも小幅に上方修正されておりインフレ定着や企業の利益確保への期待は維持されています。加えて、足元では円安進行や国内金利上昇を背景に輸出企業や金融機関の業績上方修正が意識されており株価のプラス材料とみまます。一方、今週は1日にISM製造業景況指数、2日にJOLTS求人数、3日にISM非製造業景況指数、5日には非農業部門雇用者数変化と米経済指標の発表が相次ぎますが、足元までは景気の緩やかな減速と労働市場の緩和を示す指標が多く、FRBの早期利下げ期待と相俟って株価にプラスに働いてきましたが、市場ではこれらの動きが今後も続くのか見極めたいとの姿勢が高まりやすいつとを考えています。また来週には、指数連動型ETF(上場投資信託受益権)の決算集中日控えて分配金捻出のための売却が見込まれており、週後半にかけてはそれらを背景とする買い手控えから上値の重い展開になると想定しています。その他の注目材料として、米国では3日のFOMC議事要旨公表、欧州では2日のユーロ圏CPI、ドイツでは5日の鉱工業生産、中国では3日の財新サービス業PMIなどが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co.,Ltd.
URL: <https://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会